

(2) 大久保ブナ林

① 地区の概要

この地区は4軒の温泉宿泊施設、共同浴場があり、折立温泉という温泉地である。

3月第一日曜日に、越後の奇祭と言われている百八灯の伝統行事が残っており、山の尾根に百八カ所のわらを燃やして、この年の豊作を祈願する春祭りがある。

また、昔、顔や体にイボがたくさんある尼さんが修行していた所に清水が出ていて、毎日その水で顔と体を洗っていたら、いつの間にかイボが取れ、それは美しい尼さんになって村中の人たちがお供えをし、修行を支えたと伝えられている。その水をイボ水と名付けて、後世に伝えられている。

昭和の時代にその修行場所に釈迦堂を立て、現在も3月15日のお釈迦様の日と7月23日に釈迦堂祭りを行っている。

この場所が遊歩道の起点になっている。

② ブナ林の主な構成樹種

高木： ブナ： 胸高幹周り50～210cm ≒450本

キタゴヨウマツ " 100～280cm 12本

灌木類： オオバクロモジ、エゾユズリハ、ハイイヌツゲ、ウスノキ、タムシバ、コシアブラ

下草： イワウチワ、オオイワカガミ、コシノカンアオイ、

③ 歩道の状況

中ノ沢を囲む尾根、釈迦堂から三角点をへて大久保（諏訪神社裏）登り口まで約2時間のハイキング遊歩道がある。

歩道は諏訪神社裏の登り口から少し上ったところで、ブナ林の中右寄りを通る形で尾根沿に続いている。

ブナ林の中の歩道はL=120m W=0.65m～1.0m

うち、急傾斜の階段工が40mある。

下折立自治会管理で年1回刈り払いするよく管理された歩道である。

急な勾配が続く。かなり階段工が設置されているが、雨上がりのタイミングでは階段工がないところは注意が必要である。

④ 地形の特徴

折立諏訪神社から北へ標高482mの三角点に至る尾根コースで、麓の杉林から雑木林に移行する標高320m付近に幅60m、長さ150mの平坦地にブナ林が分布する特異な地形である。

⑤ 体験可能なプログラム

イ) 自然観察……植物観察、ブナ林の植生（ブナ、キタゴヨウマツの高木→タムシバなど灌木類→イワウチワ等の下草から構成されている）

ロ) ブナ林の多様な生態系……ブナの木々の樹幹周囲が比較的大きく、中には幹が腐食し、中に室ができて古木もあり、10年ほど前には、フクロウが2年巣を作り子育てした記録があり、ヒナが巣立った写真もある。

ハ) 五感で感じるブナ林の体感（風、鳥の声、木漏れ日……森林浴）



歩道の左右ブナ林の状況



ブナ林の中の大木